

※ 未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた集計結果です

設問 1（授業科目名・クラス名）

設問 2（科目コード）

設問 3（回答者名）

※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 4～13）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。 ①:あてはまる ②:ややあてはまる ③:あまりあてはまらない ④:あてはまらない

設問 4 シラバスに沿って授業を行えた。

①:7 (54%) ②:5 (38%) ③:0 (0%) ④:1 (8%) 未回答:0 (0%)

設問 5 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:3 (23%) ②:10 (77%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:4 (31%) ②:7 (54%) ③:1 (8%) ④:1 (8%) 未回答:0 (0%)

設問 7 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:4 (31%) ②:8 (62%) ③:1 (8%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 8 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:3 (23%) ②:9 (69%) ③:1 (8%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 9 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:7 (54%) ②:6 (46%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 10 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①:9 (69%) ②:4 (31%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 11 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:0 (0%) ②:4 (31%) ③:4 (31%) ④:5 (39%) 未回答:0 (0%)

設問 12 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:2 (15%) ②:10 (77%) ③:1 (8%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 13 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:3 (23%) ②:9 (69%) ③:1 (8%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

B (問 14~18) : FD 活動についてお尋ねします。

設問 14 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。(複数回答可)

- ①他教員の授業参観： 2 (15%)
 - ②学内外の FD 講演会等への参加： 4 (31%)
 - ③他大学の FD 活動の視察： 0 (0%)
 - ④その他： 4 (31%)
・・・「書籍による指導法の研修」2 クラス、「実技の習得」、「技術を身につけるための指導法の検討を行った」
- 未回答： 5 (39%)

設問 15 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。(複数回答可)

- ①他教員の授業参観： 7 (54%)
 - ②学内外の FD 講演会等への参加： 6 (46%)
 - ③他大学の FD 活動の視察： 0 (0%)
 - ④その他： 1 (8%)・・・「実技の習得」
- 未回答： 1 (8%)

設問 16 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、 回答：7 クラス（順不同）

- [1] 準備の協力を学生に促し、うまくいった。・・・2 クラス
- [2] やはり技術習得に個人差があるのでそれを踏まえた個別指導に力を入れた。
- [3] 過去担当したテニスの実技授業の中で、技能・体力レベルとも最低ランクに分類される学生が多数いたため、技術指導やゲームに介入する機会を多くした。
- [4] 授業の進め方についてアンケートを実施し、学生の要望や興味を反映することに努めた。
- [5] 種目を固定せずに、次週にやりたい・やってみたい種目について希望を出し合い、授業の最後に次週の種目をみんなで決めるようにした。
- [6] 昨年度行わなかった筆記試験を導入した。昨年度よりもシラバスに対する遵守の度合いはさらに改善していると思われる。

設問 17 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 4 クラス（順不同）

- [1] 指導を通して、学生のテニスに対する興味を高めることができたのではないと思う。
- [2] 学生の授業に対する興味や関心、そして意欲が昨年より増したと感じている。
- [3] 反省すべき点は学生のグルーピングに関するきめ細やかな配慮が必要だったこと。
- [4] 本講の評価できる点としては、①座学のみならず救急蘇生実習などの体験学習型のプログラムを用意している点。②地域医療への理解を深める目的で、日本赤十字などの外部の医療関連団体から講師を招へいするなどの工夫を行っている点が挙げ

られる。反省点は現時点では特筆すべきものはないと考えるが、更なる教育の質の向上を目指していきたい。

設問 18 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル： なし

C (問 19～21) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 19 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい： 9 (69%) ②いいえ： 4 (31%) 未回答： 0 (0%)

問 19 で「はい」の方は問 20、21 にお答えください。

設問 20 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

- ①聞いて理解する： 2 (15%)
- ②読んで理解する： 0 (0%)
- ③自分の考えをまとめて話す： 3 (23%)
- ④自分の考えを文章にまとめる： 2 (15%)
- ⑤討論する： 0 (0%)
- ⑥皆の前でプレゼンテーションする： 0 (0%)
- ⑦その他： 5 (38%)

・・・「学生相互のコミュニケーションを促す。」2 クラス、
「グループ内で相互のコミュニケーションを活発にすること。」、
「コミュニケーション能力とその障害についてを主要なテーマのひとつとして講義していること。」、
「身体的なコミュニケーション・チャンネルの効果的な活用について」

未回答： 4 (31%)

設問 21 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 4 クラス（順不同）

[1] テニスの授業全体を通して学生相互のコミュニケーションが高まるような指導をすること。

[2] 授業全体を通して、学生に相互のコミュニケーションを促した。

[3] グループ内で活動内容を話し合い、実施させる。

[4] 発達障がい等のコミュニケーション能力に困難を抱える方の困り感や、その臨床的態様を講義内容にとり挙げ、またこどものこころの発達や「こころの理論」を詳述する中で、円滑なコミュニケーションに必要な要素やディスコミュニケーションの背景要因について、学生の理解が進み、日ごろのコミュニケーション能力の向上に役立つよう工夫している。

D（問 22～25）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 22 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい： 2（15%） ②いいえ： 11（85%） 未回答： 0（0%）

問 22 で「はい」の方は問 23～25 にお答えください。

設問 23 その内容を授業に取り上げるおおよその回数を選んでください。

①1～5回： 2（15%） ②6～10回： 0（0%） ③11～15回： 0（0%）
未回答： 11（85%）

設問 24 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

①歴史・文化： 0（0%） ②政治・経済・産業： 0（0%） ③自然環境・フィールド体験： 0（0%）
④その他： 2（15%）・・・「感染症で口蹄疫について」、「地域医療」 未回答： 11（85%）

設問 25 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 1 クラス

[1] 献血などの地域事情について、日本赤十字宮崎支部から外部講師を招いての講義を行っている。